

■ 札幌ふるさとの樹木 ■

その13：ミズナラ（水柵）・ブナ科

多量の水分を含み、容易に燃えないことからこの名がある。別名、オオナラ。ナラの意は、
①若葉や若枝がしなやかなことを意味し、「しなやか」の古語はナラナラであったことから。
②他の木の落葉後も葉が枝に残って風に「ナル」ことから。
③葉が広く平らであることから。ナラ（平ら）など諸説あり。日本各地の山地に生える。

温帯林の代表的な樹種。樹皮は黒褐色を帯び、縦に不規則な裂け目がある。花期は5月。黄褐。♀腋生。♂尾状。葉は互生、葉柄はごく短い。材は重く、ち密で木理が美しく、家具、建築材など用途が広い。



ミズナラの子孫を残す戦略は、動物に手伝ってもらうことである。地面に落ちた実は、そのままでは大きな親の体が太陽の光をさえぎり、芽を出しても成長できない。

栄養のたっぷり詰まっている大きい実(ドングリ)を落とし、ミヤマカケス、エゾリス、エゾアカネズミなどに他の地に運んでもらい、そこで子孫を増やす。例えば、エゾリスは他の地にドングリを運び、一度に食べられないと地面に穴を掘って中にドングリを埋める。その食べ忘れたドングリが芽を出し、成長するというわけである。

